

令和5年度第1回岐阜市高齢者福祉計画推進委員会

令和5年5月26日（金）午後1時30分～午後2時30分
岐阜市役所 庁舎 12階 第1研修室

■議事

- 議事1 委員長、副委員長選任
- 議事2 諮問
- 議事3 第9期岐阜市高齢者福祉計画策定について
 - ・第9期岐阜市高齢者福祉計画策定について【資料1】
- 議事4 今後の岐阜市高齢者福祉計画推進委員会のスケジュールについて
 - ・今後のスケジュール【資料2】

■出席委員(五十音順)

安達 智紀	委員	岐阜市介護支援専門員連絡協議会
石原 徹也	委員	社会福祉法人 岐阜市社会福祉協議会
石山 俊次	委員	岐阜県国民健康保険団体連合会
今井 優利	委員	公益社団法人 岐阜県理学療法士会
大羽 正美	委員	一般社団法人 岐阜県訪問看護ステーション連絡協議会
加藤 剛	委員	特定非営利活動法人 岐阜県グループホーム協議会
川田 博子	委員	岐阜市民生委員・児童委員協議会
北野由紀子	委員	公募委員
柴田 純一	委員	中部学院大学
鷺見 譲	委員	岐阜県老人福祉施設協議会
棚橋 靖夫	委員	岐阜市老人クラブ連合会
中谷 圭	委員	一般社団法人 岐阜市医師会
西脇 嘉之	委員	公募委員
安江 紀裕	委員	岐阜県老人保健施設協会

■審議概要

1 開会

委嘱状交付

<福祉部長より挨拶>

2 議事

議事1 委員長、副委員長の選任

事務局

本日の会議については、構成委員15名のところ過半数の出席をいただいているので、岐阜市高齢者福祉計画推進委員会規則第5条の規定により、本会議は成立している。

続いて、同規則第4条の規定に基づき、委員長、副委員長の選任をお願いしたい。規則では互選によるとなっているが、いかがか。

委員

委員長には柴田純一委員、副委員長には石山俊次委員をお願いしたい。

委員

(異議なし)

事務局

それでは、委員長には柴田純一委員、副委員長には石山俊次委員をお願いする。

(柴田委員は委員長席へ、石山委員は副委員長席へそれぞれ移動)

委員長

介護保険制度は複雑になってきているが、よい計画ができるよう、ご協力よろしくお願ひする。

副委員長

介護認定審査委員などのさまざまな経験を生かし、委員長を補佐していくのでよろしくお願ひする。

議事 2 諮問

(市長代理の福祉部長から委員長あてに諮問書を交付)

委員長

ただいま岐阜市高齢者福祉計画について諮問いただいた。審議を尽くしてまいりたい。

事務局

以後の進行は委員長にお願いする。

議事 3 第 9 期岐阜市高齢者福祉計画策定について

・第 9 期岐阜市高齢者福祉計画策定について

(資料 1 により事務局から説明)

委員長

ただ今の説明について、ご意見等はあるか。

委員

地域包括ケアシステムの構築と言われて何年か経つが、構築されたかという点はまだまだと感じている。これまで構築に向けてできた部分とできていない部分について具体的に示していただけるとよい。診察に来られる高齢者の中には、ひとり暮らしで介護認定が必要な方もおり、地域包括に連絡することもある。そういった点でまだまだかと感じている。

委員

高齢者等実態調査の結果で、62.3%が自宅での生活を希望しているということであるが、本人と家族の意見の相違により在宅介護が困難になっているケースもあることから、本人からだけでなく介護者の意見も見ることが必要だと感じた。

小規模多機能型居宅介護と看護小規模多機能型居宅介護の利用が進まない要因としては、サービスを利用するために施設内のケアマネへの変更が必須であることが考えられ、ケアマネを変更しなくてもよいのであれば利用が進むと思われるので、そういうことも考えていってもよいのではないかと考えている。

委員

同じく高齢者等実態調査で、訪問介護が最も不足しているサービスだという結果が

出ており、現場でもそのように感じているが、さらにこれだけの在宅介護への希望を支えていくためには、ヘルパーを充足させる何らかの大きな方策が必要であり、各事業所の努力では困難な域に達していると考えている。

また、介護支援専門員・地域包括職員への調査の結果で、業務として難しいこととして困難なケースへの対応が挙げられているが、特に介護保険以外のサービスに繋げなければいけないケースが出てきている。そういったケースをケアマネだけでなく、横の繋がりで解決できるシステムが岐阜市において明確になるとよいと思う。

導き出される施策体系等の基本理念にある「生きがい」を持つには、高齢者一人ひとり違うため、そこへの支援やそれを活用できる地域づくりの方法について、まだ検討が必要であると思っている。行政と地域のさまざまな資源、人材がどのように繋がり、形をつくっていくのかというところまで計画の中に盛り込めるとよいと感じた。

委員長

広い範囲からのご意見であったが、どのようにしたら地域連携が進むかなど、何かご提案などはないか。

委員

地域には既にいろいろな役割を担っている方がいるが、バラバラになっているのでまとめて行く必要がある。地域包括でもその努力はされているが、業務過多などで難しい面もある。地域にあるさまざまな活動を横から繋げられる役割の方がいるとすごくよいのではないかと思う。

委員

在宅介護実態調査の結果で、要介護度3以上の方のご家族でも施設入所等を「検討していない」という回答が約半数を占めていることが衝撃的であった。実際に、市内の特養やグループホームでは待機者が減ったり、空きがあるような状況である。在宅介護による虐待等のリスクなどの大変なこともある中、どうして入所等したくないのか、できないのか、さらに深掘りをして今後の施設サービスのあり方を検討していく必要があると思う。

委員長

経済的な理由も考えられるか。

委員

あるとは思う。

委員

日頃、ひとり暮らしや高齢者夫婦のご家庭を訪問する中で感じていることだが、認知症などでは、ご家族の方から施設入所を希望する声が多くなっている。何とか在宅サービスを使って介護しようとしても、その費用が年々増加していることもあるのかなと感じた。

また、在宅サービスでは障がいのある方が増えてきていると感じているので、障害福祉計画なども絡めて考えていく必要があると改めて感じたところである。

委員長

本日のご意見も踏まえ、今後議論を重ねていきたいと考える。

それでは、次の議題について説明をお願いします。

- ・今後の岐阜市高齢者福祉計画推進委員会のスケジュールについて
(資料2により事務局から説明)

委員長

先の議題における各委員からのご意見に対し、事務局からの発言はあるか。

事務局

本日いただいたご意見は、それぞれ課題と捉えている。今回のご意見を踏まえ、次回以降、具体的な計画の内容について提案していくので、その都度、ご意見等をいただきたい。

委員長

副委員長より一言いただく。

副委員

地域包括ケアシステムの構築に向けては、制度が複雑化し過ぎており、互いの理解が不十分であることが妨げになっている。したがって、いかに繋げていくかということが重要である。さまざまな職種の人が集まって話し合えるシステム化を進めることが重要である。今後の会議でもそれぞれの分野から意見を出していただき、検討を進められればと考えている。

事務局

以上で、第1回岐阜市高齢者福祉計画推進委員会を閉会する。

(閉会)